

# これが「天」の最終警告だ

(播磨屋本店ダイレクトメール二〇一八年夏号掲載)

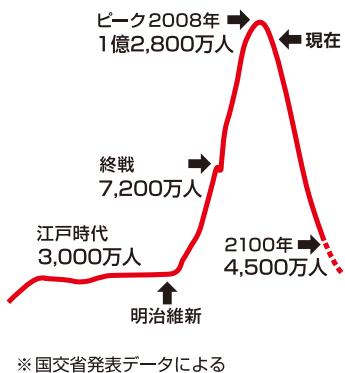
## 「このままでは日本は滅亡する」

**この国の「民主主義」は、とっくの昔に死んでしまっています。本来備えているべき自浄能力を、完全に失ってしまっているからです。**

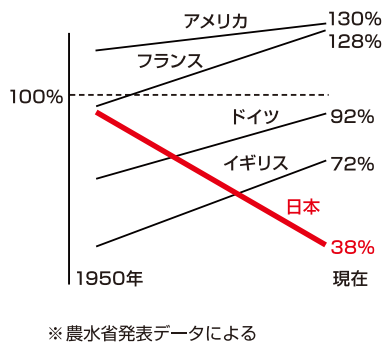
左の二つのグラフを見てどう思われますか。恐怖を感じない日本国民は、ただの一人もいないはず。しかもその上にこの国は、年々増え続ける一方の超巨大な財政赤字(推定二〜三千兆円)を抱えて、いつ国家破産するかも知れないのです。にもかかわらずこの国の指導者たちは、国の危急などどこ吹く風と、来る日も来る日も、目くそと鼻くそが互いのあら探しをしているばかりなのです。

いつまでも、死骸同然の「民主主義」などにすがりついていては、真にかけがえない愛する祖国日本は滅亡を待つのみです。今こそ、本質的かつ抜本的な全く新しい政治体制(覚者天皇親政)への移行が、文字通り焦眉の急であるのです。

■ 日本の総人口推移



■ 主要各国の食糧自給率



## 「このままでは人類は絶滅する」

幾度となく説明してきました通り、この世は、無限のミクロから無限のマクロへ有機的につながりつつ広がる一大生命体です。そしてこの事実、自分自身が無数の細胞の集合体であり、その細胞一つ一つがまた、無数の原子や分子の集合体であることを科学的に知っている我々現代人には、自明の理であるはず。

**故に、我々人類を含む無数の生命の集合体であるこの星地球も、さらには無数の星々の集合体である宇宙も、その一大生命体の一部一員であるのです。** そんな母なる地球生命に対して、我々人類は一体全体何をしているのでしょうか。

**私播磨屋助次郎が今最も恐れるのは、母なる地球生命の免疫機能が働き始めることです。** 例えばですが、もしも空気感染する殺人ウイルスの感染爆発(パンデミック)が起これば、人類絶滅など、それこそあつという間なのです。

## 三、天皇よ神に戻れ

ここで言う神は、覚者のことです。自然の本質を見抜いて人間社会のあらゆる不自然を見破り、社会と人々を善導し得る能力を備えた特別な人間のことです。明治維新政府がでっち上げた、うさん臭い現人神(あひしんか)のことでは決してありません。

今から三千年以上昔の神代、天皇は全てこの覚者だったようです。だからこそ神代の日本は、戦争や争いが一切ない王道国(和の国)であり続けられたのです。

**人類絶滅を防ぎ、地球を原初通りの生命の楽園に戻すなど、それほど難しいことではありません。全人類が長々と見続けてきた愚劣極まりない悪夢——人生の目的は金儲け競争に勝つことであり、勝ちさえすれば自動的に幸せになれるなどというとんでもない錯覚——を、覚ましてやりさえすればよいのです。** そしてそのためにこそ、天皇を神に戻すこと(天岩戸開き)が絶対に必要な不可欠であるのです。

平成三十年四月三日

覚者播磨屋助次郎 謹言

注1 天皇モドキを本来の覚者天皇に戻す故事のこと

注2 神意を解する特別な人間のこと